②魚類の保全対策に係る検討

〔魚類の保全対策に係る取り組みイメージの例〕

◆実施時期と実施方法の想定

○工事期間中(1)に保全対策が段階的に進展していくものと、工事期間中の準備的期間を経て、ダム供用開始後(2)に継続的に取り組みが行われていくものが考えられる。

○ダム工事期間中は、主として、ダム事業者が中心となって、サクラマス（ヤマベ）等の魚類にとって良好な生息環境の保全方策に関する実証試験をはじめ、有用植物の保全対策との関連性も考慮した河畔林の再生を図り、さらに調査活動を基本に、伝統漁法の漁具の再生や漁法についての情報収集と試験的取り組み等を行い、伝承者の育成につなげていく。

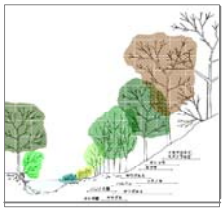
○ダム供用開始後は、稚魚の放流活動などの体験学習的な取り組みも交えながら、アイヌ文化の担い手の参画を得て、伝統漁法の継承を行っていく。

【時期の想定】　　【保全対策としての取り組みの一例】

（1）工事期間中

（2）ダム供用開始後

河畔林整備や自然工法を取り入れた魚類の生息環境の保全



稚魚の放流活動等の実施

伝統的な漁法に関する情報収集

漁具作成・漁法に関する体験学習の実施

伝承者の育成

・多様な生息環境の再生
・伝統的漁法の再現　　など